



ごみの減量/レジ袋削減調査

1. 概要

●レジ袋は、使い捨ての象徴とされ、マイバッグ持参によってレジ袋を減らす取組は誰にもできる。しかし、「くれるからもらう」マイバッグを忘れてきた」ということで、まだまだ定着していない。レジ袋削減には、無料配布を廃止し、マイバッグ持参を後押しすることが必要である。そこで川崎市内の取組を調査した。

2. 調査対象

●川崎市内7区のスーパー、生協の店舗130店(麻生区17、多摩区26、宮前区15、高津区15、中原区21、幸区15、川崎市21)

3. 調査内容

(1)レジ袋削減対策(ポイント還元、スタンプカード、現金返金、値引き、有料)は、どの方式をとっているか。
(2)レジ袋辞退率(マイバッグ持参率)



OdakyuOX栗平店

4. 調査結果

(1)削減対策を実施している店舗数は、全市で108店(83%)、区別で見ると麻生区が88.2%と最も多く、川崎区は76.8%と最少になっている。
(2)削減対策の方式では、①ポイント還元45%、②スタンプカード19%、③値引き17%、④有料14%、⑤現金返金3%の順。
(3)レジ袋辞退率では、最高99.1%、最低で5.3%と差が大きい。辞退率が高いのは、有料方式をとっている店で1位~15位までのすべてが有料方式を導入している店舗である。
(4)有料方式の店舗は、15店(生活クラブデポ3店、コープかながわ7店、オーケストア4店、OdakyuOX1店)
※平成21年8月~9月調査

5. 今後の対応

●この結果を参考に、事業者、市民団体、川崎市によるレジ袋無料配布廃止にむけて、3者検討委員会の設置を提案し、「ごみ減量推進市民会議」と連携して進めていく。(地域の店舗が一斉に取り組むことで、お店も参加しやすくなる。)



取組主体/
川崎・ごみを考える市民連絡会

生ごみリサイクル/ダンボールコンポストで

1. 概要

●ダンボールコンポスト用基材25kg入りダンボールに台所から出た生ごみを入れてかき混ぜると、微生物の働きで、簡単に堆肥ができるというシンプルさに魅かれて、2008年10月から「ダンボールコンポストで生ごみリサイクル」に取組んでいる。

2. 取組の内容と特徴

●限りある資源を浪費することなく、次の世代に少しでもよりよい環境を残せたらと、2007年8月に発足した10人のグループによる取り組みで、広めた実践者は、2年間で850人を超えた。
※川崎市600人(うち麻生区300人)、他市他県が250人

<主な活動>

- ダンボールコンポスト・スターターキットをそろえて販売
- 相談会開催(第一、三火曜日):麻生区片平の代表宅車庫
- 実践者フォロー(電話対応、訪問レスキュー)
- 講習会開催
- イベントなどに出展
- 小学校や保育園での生ごみ堆肥化サポート
- できた生ごみ堆肥を花壇や畑に持ってプレートを立てアピール(麻生区役所のプランターなど)



ダンボールコンポスト 車庫での相談会 上麻生吹込交差点花壇

3. 効果

- 1日500g、3ヶ月で50kg、1家庭平均200kg/年の生ごみ減量で、CO₂削減に繋がる。
- 生ごみを土に還すことで、生物の循環、資源循環が保たれる。
- ダンボールコンポストの取り組みを自治会、グループなどでやることにより、コミュニティが生まれる。
- 堆肥を作ることで、ガーデニングなど町に緑が増える。



麻生区役所前広場



ダンボールコンポストの仕組み 取組主体/環境を考える会

ごみの減量/食料品などの共同購入による3Rの実践

1. 概要

●片平在住の25人の大型班が、生活クラブ生活協同組合から食料品などを共同購入して、ごみを出さない(リデュース)、繰り返し使う(リユース)、分別して再生利用(リサイクル)の3Rに取り組む。

2. 取り組みの内容と特徴

<R①:リデュース>

●卵パックの未使用。つまり、卵を5kg~7kgトレーで購入して各自の器で持ち帰るのでパックを使わない。
※10個入り卵の場合は紙パックで何度も使用する。

<R②:リユース>

●平成6年に開始されたグリーンシステム(規格を統一したリターナルびん[Rびん]を回収して再利用)により、調味料やジュースなど使い捨てでなく何度も使用できるRびんで購入している。
※醤油、みりん、酢、ソース、ジュース、つゆ、ケチャップ、ジャムなど60品目を6種類(200、350、360、500、900ml)のRびん1本で35~60回使用できる。
※これは、他の生協なども規格統一化している。
●平成12年には牛乳も再使用できるびん(900ml)になった。

<R③:リサイクル>

●廃食油回収
※家庭から出る油を回収してせっけん「きなりっこ」をつくり、使用することで、水環境も守っている。
●牛乳キャップや配達仕分け用袋のリサイクルもされ、再生ごみ袋になる。

取組主体/麻生区内の個人宅

3. 効果

- Rびんはワンウェイびんより1本で約220gCO₂を減少することができ、平成20年度に生活クラブ神奈川でこの取組により減らしたCO₂量は664t
- 共同購入することで、卵パックなど包装容器のごみを削減(生活クラブ神奈川で190万パック/年節約できた)



車庫での共同購入品仕分け風景 びん入り牛乳



卵は計って持ち帰り各種Rびんや卵の紙パック、牛乳びんのふたは回収 廃食油はポリタンクの中へ、袋も切り開いて回収へ

地産地消と資源循環/麻生区区民会議の取組

1. 概要

- 2009年3月よりレストランあさお(区役所食堂)の生ごみを東京農業大学のプラントで肥料(みどりくん)にする。
- 麻生区内の農家がみどりくんを使用して野菜を栽培し、それを毎月19日の「食育の日」にレストランあさおでランチとして提供する資源循環のモデル事業を2009年6月より試行している。

2. 取り組みの内容と特徴

●東京農業大学のプラント*の活用と、この肥料で育った地元産野菜を使ったメニューをレストランあさおで提供するという、大学、地元農家、区役所のコラボレーションを実現している。

【生ごみ肥料化実験プラントでの流れ】

- ①プラントへ生ごみ投入
- ②異物除去・混合
- ③乾燥
- ④搾油
- ⑤成型
- ⑥完成(みどりくん)

※プラント…短時間(約2時間)で「生ごみ」から「肥料」を製造

3. 効果

- 生ごみの肥料化と資源循環のモデル事業の試行により、地産地消を実現している。

取組主体/麻生区役所企画課
取組場所/万福寺1-5-1
電話番号/044-965-5112

■地産地消のサイクル



レストランあさおのメニュー(区役所)



生ごみ肥料化(東京農業大学)



麻生区の農産物

エコの取組・活動を お知らせください



「他の人もやっているだろう」、「投稿するほどでは…」と
思うようなことでも結構ですので、ぜひお寄せください。

投稿された取組・活動は
麻生区のホームページなどで紹介していきます。

- ◎必要事項をご記入の上、郵送、メール、FAX（写真はFAX不可）
にて下記の宛先まで送って下さい。様式は自由です。
※投稿して頂いた写真は、返却いたしませんのでご了承下さい。

【記入事項】

- ①氏名又は団体名 ②住所 ③エコの取組・活動名 ④内容
※原則として個人情報は公表しません。

【投稿先】

麻生区役所企画課
〒215-8570 川崎市麻生区万福寺1-5-1
TEL.044-965-5112
FAX.044-965-5200
E-mail 73kikaku@city.kawasaki.jp

身近なエコの取組事例

部屋を出るときは、
明かりを消します。



シャワーの水は
こまめにとめます。



窓ガラスに
断熱シートを貼ります。



平成23年（2011年）3月発行
麻生区区民会議・麻生区役所企画課